

Ikiiki
Maebashi
Jin



国際情報オリンピックで銀メダル
伊佐 碩恭さん・16歳
千代田町一丁目

新たな発見をできるのが楽しい

7月13日から20日まで台湾の台北市で行われた、国際情報オリンピック。81の国と地域から311人が参加したこの大会で、銀メダルの栄誉に輝いた。

大会は出題された問題をアルゴリズムといわれる、問題の解決・計算方法の中で最も効率的なものを考え、そのアルゴリズムが正しく動作するコンピュータプログラムを作成することを競う。柔軟な発想と、いかに正確なプログラミングができるかが上位入賞への鍵だ。

「もともと、数学が好きだったんです。設計やプログラミングをしていると、いろいろな発想や新たな見方、発見ができるのが楽しいですね」

大会では、さまざまな国や地域の選手と交流。そこで得たことは大きかったようだ。

「上には上がいるんだなと強く思いました。そのことは、大きな刺激になりました」

来行われる同大会の目標は「もちろん金メダル」。

将来の夢は父と同じく医師になること。その上で、自分が今持っている知識を生かしていきたいとも語った。

伊佐さんならきっと、日本の最先端医療の牽引役になってくれるだろう。



秋風の中多彩な催し

JR前橋駅前けやき並木通りで9月7日、けやき並木フェスタを開催しました。ストリートダンスやミニS.L、オープンカフェ、本のリサイクル「もったいねえ図書館」など楽しいイベントが盛りだくさん。参加者は初秋の風を感じながら催しを楽しみました。



世界共通言語サッカーで交流

9月13日から15日まで前橋総合運動公園などで、国際交流サッカー大会U-12前橋市長杯を開催しました。子どもたちは生き生きとした全力プレーを披露。また、韓国やオーストラリアなどのチームは、滞在中にホームステイや座禅などで日本文化を体験しました。



息の合った跳躍で競い合う

9月6日・7日に、宮城体育館で東日本トランポリン競技選手権大会が開催されました。個人競技をはじめ、2人1組で同時に同じ種目を演技するシンクロナイズド競技を実施。美しい演技と息の合った跳躍に、観客から拍手が送られていました。

赤城の恵



vol. 15



菓子「風の子守唄」

空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、生産者が妥協を許さず、手間を惜しまず作った「赤城の恵ブランド」の認証品。今回は上州銘菓「風の子守唄」を紹介します。

■丁寧な手作りクッキー

赤城の子守唄でも知られる名山、赤城山。その裾野の素朴な風土が、銘菓の名前の由来になっています。卵は100%前橋産を使っているほか、新鮮な牛乳、良質な前橋産小麦を50%使用。1枚1枚丁寧に焼き上げた手作りクッキーです。

■3つの味が楽しめる

「風の子守唄」の味は3種類。口に広がるアーモンドとバターの風味が豊かなバター味やチョコチップが入ったチョコレート味、ほど良い苦味でもう一枚食べたくなるコーヒール味が楽しめます。サクとした食感も魅力です。

■健康・栄養

原料の小麦粉や卵、牛乳、バターなどは少量でも手軽にエネルギーを補給できます。

■地域に愛され続ける老舗

六供町にある本舗は、昭和11年に創業。「風の子守唄」は、併設の工場月に約11万枚製造される看板商品です。市内や県内の量販店でも販売中。11月2日(日)に中心市街地で行われるイベント「まえばし秋穫祭市」にも出店予定です。

■生産者からのメッセージ

「風の子守唄」は、お子さんのおやつや前橋土産に、多くの方に召し上がっていただきたい商品です。今後も地域とともに前橋食材の恵みを提供していきます。

問い合わせは
風の子守唄本舗長井屋 027-224-0000